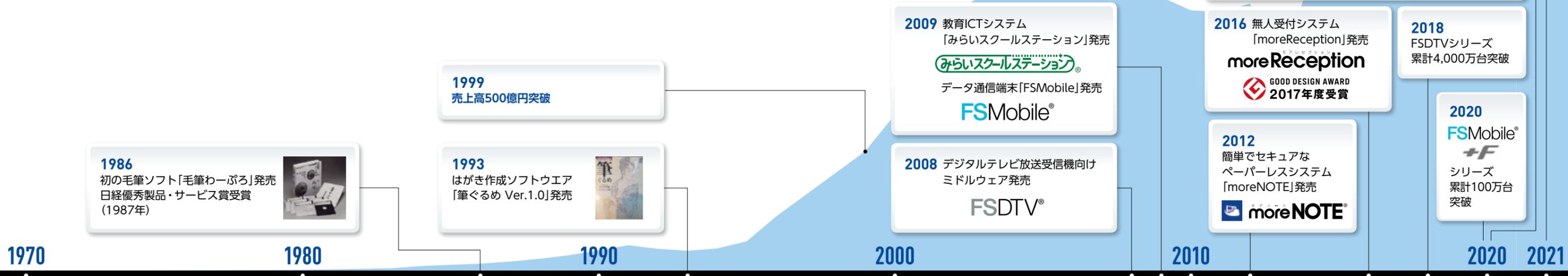


1970年5月、コンピュータの将来性に着目した創業者の野澤が2人の教え子と共に創業してから、2021年5月に創業51年目を迎えました。IT産業の躍進という大きな時代の波に乗り、現在では、国内外のグループ企業を含め14,422名(2020年12月期)の社員を擁するまでに成長しました。

富士ソフトは「変化はチャンスなり」の精神で「挑戦と創造」を続けてまいります。



創業期 (1970-1996)

オペレーター中心の技術者派遣からプログラマー中心に業態転換。ソフト開発の一括請負に尽力し、いち早くマイコン用ソフト開発に進出。独立系ソフトウェア企業としての地歩を確立し、店頭公開、東証二部上場を果たす。金融系業務システムに強みを持つ(株)ABCと合併。

- 1970**
 - 神奈川県横浜市に(株)富士ソフトウェア研究所設立
- 1984**
 - 富士ソフトウェア(株)に商号変更
- 1985**
 - 神奈川県鎌倉市に本社ビル落成
- 1987**
 - 日本証券業協会東京店頭市場に株式を公開



- 1990**
 - 第1回全日本ロボット相撲大会開催
- 1992**
 - 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1995**
 - インターネットビジネス参入
 - ISO9001(品質保証の国際規格)認証取得
- 1996**
 - (株)ABCと合併、富士ソフトABC(株)に商号変更



成長期 (1997-2010)

目標としてきた東証一部上場を2年前倒しで実現した後、証券会社、製造業、流通業等の業務システム開発会社を次々に傘下に収め、自社の強みを補完する技術や顧客基盤を取り込むM&A戦略を積極展開。

- 1997**
 - ネオソフト(株)子会社化
- 1998**
 - 東京証券取引所市場第一部に株式指定替え
 - ネオテック(株)子会社化
 - ネオテック(株)とネオソフト(株)が合併、サイバーコム(株)に商号変更
- 1999**
 - サイバネットシステム(株)子会社化
- 2001**
 - 錦糸町ビル竣工
 - (株)ダイエー情報システム(現(株)ヴィンクス)子会社化
- 2002**
 - プライバシーマーク取得
- 2003**
 - 東京データセンター開設



本社ビルに移転後、売上高ソフトウェア業界第5位を達成した2006年、富士ソフトに社名変更し、ロゴマークも一新し「第二の成長期」へ。再生医療やロボットなど、培ってきた技術を異分野の研究結果と融合する「挑戦と創造」を開始。

- 2004**
 - 本社ビル落成(神奈川県横浜市)
- 2005**
 - 東京大学医学部に軟骨・骨再生医療に関する寄付講座を開設
 - 日本経済新聞社「働きやすい会社」10位にランクイン
- 2006**
 - 富士ソフト(株)に商号変更
 - シンボルマーク誕生
- 2007**
 - 秋葉原ビル落成(東京都千代田区)
 - 経済産業省公募プロジェクト「次世代ロボットプロジェクト」に筑波大学と参画
- 2008**
 - 車載ソフトウェアの標準化に取り組む「AUTOSAR」加入し、名古屋大学大学院と共同研究を開始
- 2009**
 - 初の海外拠点台北支店開設(台湾)



変革期 (2012-)

2011年、代表取締役専務 坂下が代表取締役社長に就任。さらなる変革に挑戦する一環として、2013年より在宅勤務制度を拡大。こうした取り組みが、創立50周年を迎えた年のコロナ禍を克服する手立てに。

- 2010**
 - 秋葉原と大阪にマイクロソフトソリューション&クラウドセンター開設
- 2012**
 - ソウル支店開設(大韓民国)
- 2013**
 - ヴィンキュラム ジャパン(株)と(株)ヴィクスが合併、(株)ヴィンクスに商号変更
 - 在宅勤務制度を全社員対象に拡大
- 2014**
 - 富士ソフト・ティッシュエンジニアリング(株)を設立
 - 中国現地法人設立
- 2016**
 - サイバーコム(株)、東京証券取引所市場第一部に株式指定替え
- 2017**
 - (株)ヴィンクス、東京証券取引所市場第一部に株式指定替え
- 2018**
 - 柔軟な働き方を実現するウルトラフレックス制度導入
- 2019**
 - テレワーク・デイズに過去最大の延べ2,700名が参加
- 2020**
 - 5月15日創立50周年
- 2021**
 - FAMofficeリリース
- 2023**
 - 汐留ビル落成予定(東京都港区)